

交換留学帰国報告書

記入月日: 令和2年3月27日

氏名: 山下 慎

留学時所属&学年: 国際地域学部3年

留学先大学	元智大学
留学先国	台湾
留学期間	1学期間
留学開始一終了日	令和元年9月6日 - 令和2年1月10日

報告書上での氏名公開について（どちらかに○をつけてください。）

帰国報告書 : 公開を ~~希望します~~ ・ 希望しません

月例報告書 : 公開を ~~希望します~~ ・ 希望しません

【留学前: 留学に至った経緯や留学準備について】

1. 交換留学を希望した動機について教えてください。

入学時から留学には興味があり、ただ日本で生活しているだけではできない経験を積みたかったため。

2. 留学準備を始めた時期はいつ頃ですか。何から準備を始めたかについても教えてください。

3年の秋出発だったため、2年の初冬ごろから留学の申請を始め、留学先が決まった後に書類の準備を始めた。本格的な準備は3月に入ってから。

3. 留学先を決めた経緯について教えてください。また、派遣先の大学や現地情報についてどのように情報収集を行いましたか。

もともとは英国に留学予定だったが、事情により留学先を変更した。留学先を決めるときの基準として「経営学を専門的に学べる」と決めていて、台湾の元智大学はビジネスに関する教育が高水準であることを示す AACSB というものを持っていたので選択した。

4. 留学に向けての語学試験対策、各種語学能力試験などの受験回数について教えてください。

TOEFL iTP のテストは 1 年生の 4 月、10 月、(翌年)1 月の三回。元々、英国留学を考えていたので IELTS-Academic Module-を 2 年生の 5 月の一回。TOEIC L&R は 1 年生の 9 月、3 年生の 5 月の二回受けた。

対策としてはまず勉強する時間を確保すること。国際地域学部のカリキュラムとしては「2 年生の夏休みまでに TOEFL -iTP 550 を目指す」となっていて、それを満たせるようにすること。正しく勉強をすれば十分にとれる点数なので、まずは勉強をすることが大切。

5. 留学準備を進める際に役に立ったことについて教えてください。

(例:助言教員、国際課、留学経験者からのアドバイス、大学情報ウェブ、留学オアシスなど)

基本的に国際課の人にわからないことはできるだけ聞いて疑問点を減らしておくことが大切。また精神面での準備は留学を経験した人と話したり、信頼のおける人に話してみる。もちろんアドバイスをもらうこともそうだが、人に話すことで自分の考えが整理されるので、一人で考えすぎず、わかる人に聞くことがいいだろう。

6. 渡航前の履修登録や単位認定に関して、苦労したことやアドバイスはありますか。

単位認定は予想よりも認定してもらえないことが多いので、4 年間での卒業を考えているのであれば、余裕を持てるように早いうちから集中講義などで単位を多めにとっておいたほうがいい。(私の場合だと、計画では 4 年後期に 14 単位取らないといけないという状況で、卒論等やりながらではとても苦労するだろう。)

【留学中:大学生活や日常生活について】

A. 大学生活

1. 大学の校風や雰囲気はどうでしたか。

留学生が多く、現地の学生も留学生に慣れていて居心地が悪いという感じはなかった。

2. 大学構内の設備(ネット環境、学習支援、スポーツ施設等)について教えてください。

学内ネット環境は整っている。ほとんどの場合授業ごとに講師のほかに Teacher Assistant(以下 TA) がいて、進捗の確認は細かくしてくれるという印象を持った。

大学には大きい図書館、ジム、運動場がある。また部活動、サークル活動も充実していた。部活動に参加している留学生もよく見かけたので、課外活動も充実している。また毎月一回ほどイベントが開催されるので、楽しめるだろう。

3. 参加していたサークルや部活はありますか。部員の数や活動内容、イベントなどについて詳しく教えてください。

高校、大学とオーケストラ部に所属していて、留学先で探してみたところ「弦学部」があり、入部した。非中国語圏の学生は私だけだったが、みんなフレンドリーに話しかけてくれて楽しかった。部員はLINEのグループ上は20人弱だが、基本的に参加していたのは10人程度で、週に2回の団体練習。演奏するのはクラシックではなく、基本的にポップスや映画音楽だった。演奏旅行にも参加し台湾の他大学の学生とも交流もでき、一人では絶対にできなかった経験をできた。

B. 授業や勉強

1. 留学先で履修した科目

1	<p>●科目名(担当教員名): Accounting Principle (1) 會計學(上) (張謙恒)</p> <p>●時間数/週(単位数): 週1回50分×3コマ、演習クラスが隔週1回50分×1コマ (3 credit)</p> <p>●クラスの学生数: 約25名 + TA 1名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 1年生向けの授業。IFRSという国際会計規格の基にする。2学期を通しての授業で、これはそのうちの前半。英語開講授業。 演習クラスでTAと授業の復習。隔週で小テストがある。中間試験、期末試験がある。</p>
2	<p>●科目名(担当教員名): Economics (1) 經濟學(上) (Ting-Fang Chiang)</p> <p>●時間数/週(単位数): 週1回50分×3コマ、演習クラスが隔週1回90分×1コマ (3 credit)</p> <p>●クラスの学生数: 約40名 + TA 1名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 1年生向けの授業。英語開講授業。2学期を通しての授業で、1st semesterでミクロ経済学、2nd semesterでマクロ経済学を学ぶ。演習クラスでTAと授業の復習。隔週で小テストがある。中間試験、期末試験がある。講師が試験直前の授業で習ったことの復習をまとめてしてくれた。</p>
3	<p>●科目名(担当教員名): Management 管理學 (Liu Yu-Te)</p> <p>●時間数/週(単位数): 週1回50分×3コマ (3 credit)</p>

	<p>●クラスの学生数： 約 40名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等)： 1 年生向けの授業。英語開講授業。マネージャーとしての話を中心にしている。演習としてクラウドファンディングの商品を台湾で売り込むにはどうするべきか、データリサーチして、最終的に調査結果のプレゼンテーションと宣伝ビデオを作る。期末試験のみある。</p>
4	<p>●科目名(担当教員名): Operation Management 作業管理 (Hilary Cheng)</p> <p>●時間数/週(単位数): 週 1 回 50 分×3コマ (3 credit)</p> <p>●クラスの学生数: 約 40 名 +TA 1 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等)： 2 年生向け授業。英語開講授業。マネジメントといっても上記の「管理學」とは違って、location strategy、生産性、在庫管理などの実務を重点に置いたもの。4 回の小テストとグループワークと 2 回のプレゼンテーションがある。</p>
5	<p>●科目名(担当教員名): Financial Management 財政管理 (Yang-pin Shen)</p> <p>●時間数/週(単位数): 週 1 回 50 分×3コマ (試験 2 週間前に Voluntary-based Class がある) (3 credit)</p> <p>●クラスの学生数: 約 30 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等)： 2 年生向け授業。英語開講授業。こちらは企業のお金の管理、債券、株式などの計算方法などに重点を置いたもの。講師が英語の説明のあと、中国語でもう一度説明するスタイルを取っていた。小テスト 4 回、中間試験、期末試験がある。</p>
6	<p>●科目名(担当教員名): Mandarin Chinese(2) 華語(二) (林溫芳)</p> <p>●時間数/週(単位数): 週 1 回 50 分×2 コマ</p> <p>●クラスの学生数: 約 40 名 + TA 3 人</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等)： Non-Chinese の留学生向けの中国語授業。英語と中国語で授業は進行。5 つのレベルがあり(2)は Basic level。主にシチュエーションごとの表現や知識を身につけることを目的にする。毎授業小テスト、中間試験、期末試験がある。</p>

2. 授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫をしたことはありますか。

基本的にすべての授業を休まずに出席することと、わからないことは素直にわかる人に聞くということ。また積極的に授業中も発言をして先生の印象に残るようにした。そのおかげで先生から専門について詳しい話などを聞くことができたし、私の質問の答えを全体にシェアするということがあった。

3. 学習面で困ったことや、その解決方法について教えてください。

いくら英語がある程度できるといっても理解の深さは母国語を超えられないということを知った。英語だけで勉強した部分と、ちょっと手間でも日本語でもう一度勉強した部分では小テストで大きく点数が違った。
できるだけ英語で勉強したことでもう一度自分のわかる言葉に置き換えるというのは大事。

4. 授業スタイルはどのようなものでしたか(講義聴講、ディスカッション等)。また、それに対してどのような印象を持ちましたか。

講義形式のものもあればディスカッションやグループワークが基本の授業など、いろいろあった。私の所属していた経営学部が英語の必要要件が高いからだと思うが、皆英語がとても達者だった。そのなかで、自分の意見を発するのは少し大変だった。
また、台湾の学生たちと英語でコミュニケーションを取っている時に、いわゆる「英語ネイティブがよく使う英語」を使ったことがあったが、通じないことが多かった。非ネイティブスピーカーが使う単語の方が通じたので、そういった細かい英語についても気づくことがあった。

5. お薦めの教員や授業などがあれば教えてください。

基本的に英語開講科目を開講している教員はみな英語ができるので、心配はしなくていいように思う。
ただ、現地の学生から”Case Studies ……” という授業は取らないほうがいいと言われた。

C. 居住環境や日常生活

1. 居住場所について教えてください。

形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他()
部屋人数	(4)人部屋
寮・アパート名	On-Campus Dormitory
家賃に含まれた費用	<input checked="" type="checkbox"/> 光熱費 <input checked="" type="checkbox"/> 水道代 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット代 <input type="checkbox"/> 食費 <input type="checkbox"/> その他()
ネット環境	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
室内設備	<input checked="" type="checkbox"/> ベッド <input checked="" type="checkbox"/> 机 <input checked="" type="checkbox"/> 椅子 <input checked="" type="checkbox"/> クローゼット <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> シャワー・浴室 <input type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房機器 <input type="checkbox"/> その他 ()
共用設備	(洗濯室、コンビニなど自由に記入してください。) トイレ、シャワー、洗濯機、乾燥機、(共同スペースに)テレビ

2. 大学、住居周辺の施設について教えてください。

(銀行、現地のスーパー、日本食レストランやスーパーの有無など)

学内には銀行、コンビニ 2 つ、食堂が 4 つ程度、ミニスーパー、郵便局、本屋
周辺にはコンビニ、飲食店などは多い。

3. 現地銀行開設の有無や、現金入手方法、クレジットカードの利用頻度などについて教えてください。また、留学費用や現地での支出の管理はどのようにしていましたか。

長くて 1 年間の予定だったので銀行の開設はしなかった。現金はコンビニの ATM でクレジットカードを使って引き出した。手数料がかかるのがもったいないので、奨学金が入るごとに現金を一気に引き出してという感じでお金は出していた。交通 IC カードも便利で、金額が少なくなったらチャージしてという感じでやっていた。

4. 渡航直後に必要だったものや、あって便利だったものを教えてください。また留学期間を通し、日本から持参すべきだったもの、持参しなくてもよかったと思うものはありますか。

携帯電話の充電器などの電化製品は必ず予備を持って行ったほうがいい。いつ壊れるかわからないし、滞在先のものでは対応してないということもあるので。

5. 留学にかかる必要経費について教えてください。(現地通貨 = NT\$)(例:USドル)

内容	金額	内容	金額
渡航費	(片道)約¥20,000	食費	約 NT\$7,500(毎月)
保険代	(1 年)約¥150,000	家賃	NT\$14,200 (半年)
予防接種・ビザ代	約¥17,700	教科書代	NT\$2,500
交際費(外食等)	(毎月)NT\$300	その他	(交通費毎月)約 NT\$200

NT\$ 1 ≒ ¥3.5

合計: 約¥560.850 (1 年)

6. 文化・習慣の違いなどで気をつけていたことやアドバイス(服装・マナーなど)があれば教えてください。

食べるときにクチャクチャ音を鳴らして食べることは全然気にしないので、日本人にとってはつらいかも。フォーマルな格好をすることはほとんどないので、みんなラフな格好。お店の人が暇になると客から見えるところでも平然とスマホをいじったり、ご飯食べてたりする。
日本とサービスの雰囲気の違いに最初は驚くかもしれない。

D. 健康管理

1. 周辺の病院や学内での医療サービスについて教えてください。

学内に保健センターのようなものがあり、そこに医師や看護師はいる。大学周辺には大きい病院が一つあった。

2. 留学中に通院や入院はしましたか。その際にかかった医療費はいくらでしたか。

幸いそのようなことはなかったので、はっきりとわからない。海外旅行保険に入っていれば高額な請求はないと思われる。

3. 渡航前に必要だった健康診断や予防接種、日本から持参した薬などがありますか。

健康診断と麻疹、風疹の予防接種(の証明書)などが必要だった。その関係の書類はすべて英語で用意する必要がある。

持参した薬は胃腸薬、風邪薬、目薬など、日本で自分がいつも使っている薬を持っていった。

【留学後：成果や今後の進路について】

1. 交換留学の成果について教えてください。

留学前に設定した目標が達成できたか/留学先での学業や生活を通して学んだこと/留学前に期待した以上に達成できたこととその理由/留学中、特に努力したことや心掛けたこと/留学を終えて変わったことなど

自分は留学前の目標として、2つ挙げていた。一つは、自分が興味があったビジネス関係を専門的に学ぶということ。もうひとつは、中国語の習得ということ。この二つを一年間を通して達成しようと思っていた。結論から言うと、専門的に勉強はある程度することはできた。しかし中国語の方は全然達成できなかった。

しかし、目標以外の部分で学んだことは多かった。大きく分けて以下の3つ。

1. 準備万端で臨めることのほうが少ないということ。

・例1) 出発前の8月に台湾領事館から私が入国していることになっているというなどの連絡が来て、その対応に追われて出発の直前までバタついたこと。(結局は領事館側の勘違いだったので、事なきを得たが…)

・例2) 留学先でイベントがあり、そこで急遽日本人のグループで出し物をだすことになった。

自分が(趣味レベルで下手だけど)バイオリン弾けるということで、発表 1 週間前に演奏を頼まれて演奏した。その場は盛り上がったが、しかし準備不足で消火不良な感じが残った。

2. いつチャンスがくるか、仕事を任されるかはわからない。故に日頃の鍛錬は大事だということを痛感した。また、まずは思い切ってやってみるものは大事で、実際にやってみることで自分が本当にできること、できないことがわかる。そこでの失敗も次の成功経験に変えられるようになにごとも挑戦してみることに。

・例3)アプリのローカライズの手伝いをした時の話。海外のゲームなどをやっていて、「自分ならこういう日本語にするかな」と、シミュレーションしながらゲームしていたが、いざ実際にやってみるととても難しく、全然自分の思っているようにできなかった。自分の能力不足、知識(特にビジネス関係の用語)の浅さなどを痛感させられた。英語は中学から力を入れてやって、シミュレーションも何度もしたが、実際は全然足りなかった。

・例4)帰国してから、中国人の知り合いや台湾の留学生と会ったときに、周りから「しゃべってしゃべって！」と求められるが、(本当に)しゃべれないのに話さないといけない。その時に全然しゃべれずに劣等感を抱いてしまう。

これらのことを通して、チャンスがめぐってきたときに、YES! と自信を持って言えるようにしたいと思うようになった

3. 国が変わっても基本的な能力はあまり変わらないということ。

留学先で勉強していて感じたことで、自分の得手不得手は国が変わって、言語が変わっても、そんなに変わらないということを感じた。先日、留学先の大学で履修した授業の成績表が届いて、結果を見てみると、日本でも得意だったことは好成績で、苦手だったことはよくなかった。

当たり前なことだがこれは大事なことで、逆に「国や場所が変わってもパフォーマンスが落ちない。」という実力を磨くことが重要だと気づいたからだ。

また、留学を通して度胸と忍耐が付いたように思う。

単身で旅行に行った時に、電車の乗り換えを間違えてとても田舎な場所で降りてしまい、戻ろうにも次の電車が 1 時間半待ちという状況にあってしまった。仕方なく時間をつぶすため改札の外に出ようとすると、IC カードのエラーで出られないという…。駅員が来てくれるも、言葉通じずあたふた。つたない中国語で事情を説明し、目的地では問題なく出られるということを教えてもらい、無事に到着できた。

2. 留学中に達成が出来なかったことやその理由、反省点があれば教えてください。

前述の通り、前期半年では全然中国語は伸びなかったもので、残りの半年は中国語の授業を倍に増やし、部活動の中でもどんどん中国語を話してもっと頑張ろうと意気込んでいたが、令和2年に端を発した新型コロナウイルスの影響で、留学は半年で中止になってしまった。

そのため、挽回のチャンスを失ってしまった。このようなことは誰も予想できなかったことだが、そうだとすると、もっと出発前に準備をしていたら、最初の半年を死に物狂いでやっていたらと後悔が少しある。

3. 今後の目標や挑戦したいこと、進路や就職活動について教えてください。

いずれにせよ、留学が半年になってしまったのは事実なので、それを受け止めて気持ちの整理をつけて自分の経験にしたい。また、半年は留学に行けて、ゼロではないので、その得たものを最大化できるようにしたい。

4. あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージをお願いします。

まずは漠然とした気持ちでもいいので、何かやろうと思ったことがあればまずは行動してみましょう。「留学に興味はわいたけど、どういう流れで物事が進むのかわからない」ということなら、まず国際課なり、知り合いの人に聞いてみましょう。そこから「自分ならどうするか」ということがわかってきます。私の恩師の言葉に、「百聞は一見に如かず。百見は一考に如かず。百考は一行に如かず。」というものがあります。まずは人から聞いて、自分の目で確かめて、自分の頭で考え、そのうえで行動することが大切だと思います。

私は高校時代から、「英語が好きだからいずれ海外に行ってみたいな」程度にしか思っていませんでした。大学に入ってから、その留学が現実味を帯びていく中で今の自分にできること、できないこと、どこまでならできるのか、それが見えてきます。そしていざ海外に行ってみると、殊更にそれがわかります。私は今回思っていた形で留学を終えられませんでした。得たものがありました。成長の機会になったと思います。

海外旅行でもいいですし、短い期間でもいいので、外に出てみる。これが成長につながると思います。もしも自分が海外に行ったらどうなるかな、そんなことをすこし考えてみてはどうでしょうか。